

令和7年度 第6回気高地域振興会議議事概要

日 時 令和8年1月27日（火）10時00分から12時00分

場 所 気高町総合支所 2階会議室

〔出席委員〕

地原伸、原克栄、大原友美、河根裕二、渡辺雅子、片山敬子、木村明則、
湯口正子、荒尾純子、松井千晶、武田敏男、田中敦志

以上12名（順不同敬称略）

〔欠席委員〕

なし

〔事務局〕

中原支所長、久野副支所長兼地域振興課長、伊藤産業建設課長、森本市民福祉
課長、小宮地域振興課長補佐

〔傍聴者〕

なし

◎議事概要

1 開会

2 協議・報告事項

（1）気高地域未来プラン実施計画進捗状況について

【事務局】今年度より始まった気高地域未来プランのより細部である実施計画について、現時点での進捗状況について説明をおこなった。

【委員】次代を担う子供たちの教育環境の充実でコミュニティスクールの推進という記載があるが、これは単年のものか。

【事務局】単年のものであり、今後5年間で進捗管理をしていく。

【委員】コミュニティスクールの推進というので、ここにはこの文言しか記載がないが、実際の評価指針や達成の評価根拠について教えてほしい。

【事務局】基本的には学校運営協議会で、それぞれの学校の評価やそういったところが協議会の運営委員会で議論されている。年度当初にコミュニティスクールの推進というかたちで、小学校や中学校での様々な取り組みを運営

委員会のなかでも協議や審議されたところが評価の一つの指標になっている。

【委員】学校の協議会が年に3回開催されているけれども、それで目標達成ということなのか。

【事務局】それだけで目標達成というわけではないが、それぞれの地域や公民館などでの会議に出席することで、青少年育成の関係なども一つの取り組みの成果として話には出てきているので、そういったこともコミュニティスクールの推進という指標の一つになると考えている。

【委員】コミュニティスクールの推進ということで、学校の協議会でも話が行われていることは理解できてはいるが、これから5年間の計画のなかでの1年目というところでやることをやっても、それを進化させるのかどうなのか、逆に言えば進化するためには課題を見つけていかないといけない。そのあたりを明確にしていかないと、同じことの繰り返しになり、形骸化してしまう。やることはやるけど結果としてどうなったのかが具体的に見えてこないといけなく考える。5ヶ年計画の良さは、1年1年改善していけるかステップアップしていくかということだと思う。そのあたりが単年であれば、それぞれの評価指標がしっかりしていて、それに対してどういった実績があり、改善が見られたとか、そういうものが具体的に出てこない歯痒い部分ではある。5ヶ年で何をどうしたいかという大きな目標があり、それに対し1年目はこの目標、2年目はこの目標といった見える形で、関係会議に向かってもらえるとありがたい。

【委員】小規模校転入制度を利用して、具体的にどういったプラスの効果があったのか、発展に向けて今後どのようにしていけばいいのかというふうに、次に向けての方向性やステップになるようなものが得られると今後前進することができると思うので考えてほしい。紙面ではスペースの関係でどうしても収まりきれないかもしれないが、必ずしも数値でなくても、目標があった結果がこうであったといったように残るものがあると、2年目さらにその上を目指すということもできる。評価の事業の方向性にしても継続と記載してもいいか。事業の方向性には継続と拡大しかないが、例えば整理や具体検討とかあってもいいのかと思う。形式にとらわれずに実質的な部分で前進していくような手立てを見出し、共通理解できればと考えてい

る。

【事務局】 実際学校関係者だけではなく、どのようにして市民全体に知ってもらうかを考えると、ホームページを各学校が作成しているが、それぞれのホームページの中でも学校の方針や教育方針が、ホームページ上に掲載していない学校も実際あったので、そういったところ部分を掲載するようお願いして、市民がホームページを開いて、この学校はこういった形で活動しているとか、そういうところを誰が見てもすぐにわかるような形でやってほしいというようなお願いをしているので、それを含めて対応してもらうように本課にも伝えて、来年度に向かっていきたいと考えている。

【委員】 例えば宝木小学校には団らんカフェが開放されており、地域の人同士が繋がり交流することで、アイデアを出すといったいい流れができています。それを今後も広げていかないといけないので、どのようにしていけば、より地域に足を運ぶかということを考え継続することによって、学校と地域が力を合わせて、協力していけるような体制が高まっていくと思うので、そういう働きかけを行政にはお願いしたい。

【会長】 この計画の進捗管理をするにあたっては、ある程度の数値目標が必要であると感じている。数値に基づいたものでないと、いざ評価をする際にどういったもので評価をおこなったのかという目安のようなものがない。次回からでよいのでできる限り目標は数値で表記してほしい。

【副会長】 実施内容、実施状況を記入する欄や決算額としたもので、改善案や解決策それを何に使ったかを表記しないと評価する際に何を評価すればよいかわからなくなる。

【事務局】 様式は全体として定められているが、変更が可能かこちらで確認してみる。

【委員】 各課題に対しては関係者を交えて個別に会議をしていかないと明確になってこないし、解決に向けて進んでいかない。また、地域防災も避難行動要支援者名簿を地域に配布して加入促進を依頼とあるが、これだけでは効果が見えないし、何年も同じことを繰り返しているように感じているので、少し工夫していただきたい。

【委員】 新たな産業振興や特産品づくりとあるが気高町は資源にも恵まれて

いるし、アピールが足りていないように感じている。対策としてなにか考えているか。

【事務局】日光地区を中心とした自然資本産業や温泉熱を活用した農業参入などの取り組みを始めている。企業などの関係者とも連携を図って特産品づくりにも取り組みを進めていきたいと考えている。

【会長】年末に松井酒造が地域向けに試飲会を実施され大盛況であった。今後も地域に根付いて活動して行ってほしいと期待をしている。

【副会長】廃校舎の活用方法の検討で今年度逢坂小学校を皮切りに他の小学校も検討に入ってきているので、事業の方向性としては継続ではなく、拡大する方向で考えて行ってほしい。

【委員】町内には小中学校だけではなく、専門学校もあり学生が地域行事などに積極的に参加してくれている。今後より情報化社会が進んでいくなかで、若い世代に協力してもらってより地域を盛り上げていきたいと考えているが、そのあたりは行政としてそのように考えているのか。

【事務局】現在も入学式や卒業式には出席をしており、学校側とも積極的に関わっている。来年度は日本語学校も開校されるようで、国内外問わず学生が増えることが考えられるので、より強固な関係を築きつつも貝がら節まつりを始めとした地域でのイベントに積極的に参加していただきたいと考えている。

(2) 自然資本産業誘致・振興事業について

【事務局】今年度より日光地区を中心として事業展開を始めたエーゼログループの進捗状況と今後の予定について説明をおこなった。

【委員】まだスタートした段階であるので何とも言えないが、講演会なども日光住民限定となっており、せっかくエーゼロに来てもらっているのにもったいない気がしている。

【事務局】事業開始初年度ということもあり、現時点では日光住民限定のものが多いが、今後より展開していくなかで、例えば町内等のより広い地域の住民向けに講演会や発表会等がおこなわれる見込みである。機会を捉えて周知していきたい。

【会長】今後進捗があれば、本会でも随時報告していきたいと考えている。

我々も関心を持って見守っている。

※次回日程について

令和8年4月21日（火）14時からとし、後日改めて連絡する。

以上